

2023年(令和5年)

10月11日 水曜日

朝日学生新聞社 東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞社新館9階 電話 03-3545-5223(広報) 03-3545-5222(編集) 購読申し込み 0120-415843 ウェブサイト www.asagaku.com

朝日小学生新聞

ピッコアップ
ながくら 長倉さんと読者「世界」を考える
3面



ニュースあれこれ

国際 イスラエルとハマスが衝突 死者1500人こえる

中東のパレスチナ自治区のガザ地区を実効支配するイスラム組織ハマスが7日、イスラエルを攻撃しました。イスラエルが反撃するなど大きな衝突につながり、9日までに両方の死者数は1500人をこえました。争いはさらに悪化しそうです。



イスラエルとパレスチナは土地などをめぐり長年争っています。アメリカが間に立つ和平交渉は中断しています。

ハマス イスラム教の教えにもとづく国づくりをめざす武装組織です。イスラエルの政策に反対して1987年に設立。ガザ地区を武力で支配しました。

国際 アフガニスタン西部で地震 マグニチュード6.3 死者2千人超

アフガニスタン西部のヘラート州で7日、マグニチュード6.3の地震がありました。アフガニスタンを支配するイスラム主義勢力のタリバンは8日、「2053人が亡くなった」と発表しました。



アフガニスタンの地震でがれきとなった家屋＝7日、アフガニスタン・ヘラート AFP時事

現地はどろや岩などでできたこわれやすい家が多く、犠牲者はさらに増える可能性があります。

3面にもニュースあれこれ ノーベル平和賞にモハンマディさん

日付は現地時間。記事の一部は朝日新聞社の提供です



6面 声と絵で楽しむ

7面 「何時に？」を英語で

8面 小説 RUN・ラン・らん

地雷なくす たゆまぬ努力を

ウクライナで続く戦争のニュースで「クラスター爆弾」といった言葉を聞いた人もいるでしょう。地雷と並び、多くの人を傷つける兵器です。先月、アメリカ(米国)・ニューヨークに本部がある国際連合地雷対策サービス部(UNMAS)のアイリーン・コーン部長が日本に来て、朝小の取材に応じました。世界平和に向けて日本が果たした役割を知ってほしいといいます。(中塚慧)



アフリカのスーダンと南スーダンの国境近くで、防護服を身につけて活動する地雷除去員たち UNMAS提供

紛争後何十年も苦しめ続ける

地雷は地中にうめる爆薬で、ふれたら爆発します。争いのためにしかけられて、爆発せずに残ることがあります。UNMASは、おもにアフリカや中東の国々で、地雷などの爆発物を取りのぞく活動をしています。コーンさんは地雷のこわさを「紛争が終わって何十年も、人々を苦しめ続ける」と説明します。「生まれる前の争いのため、手足や命までうばわれる子たちがいます。例えば橋にしかけられたら、仕事に行けず、生計を立てられなくなる人もいます。私たちは学校や病院、畑や道

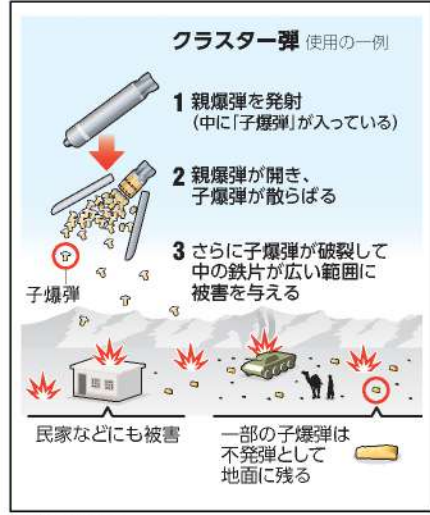


UNMASの役割について話すアイリーン・コーンさん＝9月15日、東京都渋谷区

国連の地雷対策担当者が語る

国連地雷対策サービス部 (UNMAS)

国連の部局として1997年に設立。地雷対策にかかわる国連のほかの組織のまとめ役を担います。2022年は21の国と地域で、戦争によって残された約11万個の爆発物や約6千個の地雷などを処理。爆発物の危険性や取りあつかいについて伝える教育活動を260万人以上に行いました。世界各地で3173人が働いています。



朝日新聞社

路から地雷を取りのぞき、人々が安心して暮らす生活にもどれるよう力をつくっています」

「第2の地雷」クラスター爆弾

ロシアに攻め込まれて争いが続くウクライナに、米国は7月、クラスター爆弾をあたました。この兵器は、容器になった親爆弾の中にいくつもの子爆弾が入っていて、空中で子爆弾がばらまかれます。子爆弾のうち4割近くが爆発せずに残るとされ、第2の地雷といわれます。「でたらめに地雷をしかけるようなもの。どこに落とされたかの地図がないまま、人々を危険にさらし続けるのです」。2010年、クラスター爆弾を使ったりつくったりすることを禁じる条約が効力を持ち、日本をふくむ100か国以上が加わっています。しかし米国やロシア、ウクライナは入っていません。

地雷処理に貢献続けた日本 若い世代もできることを

コーンさんは米国で生まれ育ちました。家族には悲しい歴史があります。お父さんはドイツ出身のユダヤ人。第2次世界大戦(1939〜45年)中、ユダヤ人はドイツをふくむヨーロッパで迫害され、たくさんの方が殺されました。お父さんは6歳のときに、家族で命からがら米国にのがれてきたのです。

「親戚には、(ユダヤ人が連れていかれた)強制収容所で殺された人もいます。迫害を受ける前はドイツで幸せな暮らしをしていたこと、何も持たずに米国にのがれ、一から生活を立て直したこと。父は覚えている限り私に聞かせてくれました」

そうした背景があり、子どもころから紛争や、紛争が人々に何をもたらすかに強い関心がありました。大学院で国際法や国際問題を学び、国連に入ったコーンさん。90年代に、内戦が続いていた中央アメリカのエルサルバドルとグアテマラで、武力紛争にまきこまれる子どもたちを支える仕事もしました。

日本の子どもたちには「地雷処理をはじめ、日本が世界の平和のために力をつくしてきたことを知ってほしい」といいます。日本政府は長年、東南アジアのカンボジアで地雷処理を支援してきました。「人道的な目標にむけて、日本の若い世代ができることは、これからもたくさんあるでしょう。みなさんに期待しています」

れっ! ゴーガン

10月11日 水曜日 第28号

感想は名前、(あれば)ペンネーム、学年、〒住所、電話番号、を書いて、メール(gasho@asagaku.co.jp)、郵便番号(〒104-8433朝日小学生新聞)で、「ユーガイ」係へ。

まず、陸上クラブからだね

クラブ活動の取材を始めるわよ

よーし!

直撃取材 キメチャウゼー!

ユーガイ サツ